

ホヤオンドル・温水マットダブルの組立要領と感想

設置日	2023. 1. 25
設置した部屋	広さW3.8m×L2.85mのフローリング床
設置した床暖房	ホヤ床暖房 温水マット ダブル (W2,030mm×L2,030mm)
工 具	不要、軍手で組み立てた方が望ましい。
設置に要した時間	組立時の写真を記録しながら組み立てをしたため、また途中で設置方向を変更し再組み立てをしたため、組み立てに3時間弱を要した。次回行う時は1時間もかからないと思います。
感 想	<p>設置に関しては周りに家具があり、床マットと家具のクリアランスが250程しかなく、体が入りづらく組み立てが、しづらかった。また、敷板のJOINTがくさび型のフックとなっており、これらを嵌めるのに手間取った。</p> <p>使用に関しては電気カーペットと異なるジワ~とした暖かさを感じGOOD。これが「岩盤浴」の感じなののでしょうか？（岩盤浴をよく知らないで・・・）</p> <p>使用日時は関西では「10年に1度の大雪」、雪が積もった日の10時30分に使用開始。温水循環器の設定温度を40℃にし、床が温まったと感じたのは1時間以上経ってから。床マットに掛けシートを掛け、その内温は20℃、部屋もほんのり少し室温が上がった感じ。エアコン嫌いの私はコタツのように使い、部屋の暖房なしで暖かく、過ごせました。</p>

<組立要領>

① 納品



写①-1



写①-2

段ボール4箱が届きました。

*夏場に温水マットを仕舞うのであれば、段ボールを残しておいた方がいいと思います。

段ボール内の品は以下の通り。

- 上の左端：天板
- 上の左から2番目：敷板
- 上の左から3番目：サイドバーと組立・取扱い説明書
- 上の右端：ホース出入り口用の敷板
- 下の左端：ホース
- 下の右端：温水循環器（白色）とホースカバー（黒色）

② はじめに (全体配置イメージ)



写②-1



写②-2

上記2つの写真は敷板にホースを設置した状態の写真です。これをイメージして敷板を設置します。

まず、温水器循環器の設置場所を決めて、温水循環器近くに置く必要がある「ホース出入り口用の敷板」の設置から行います。

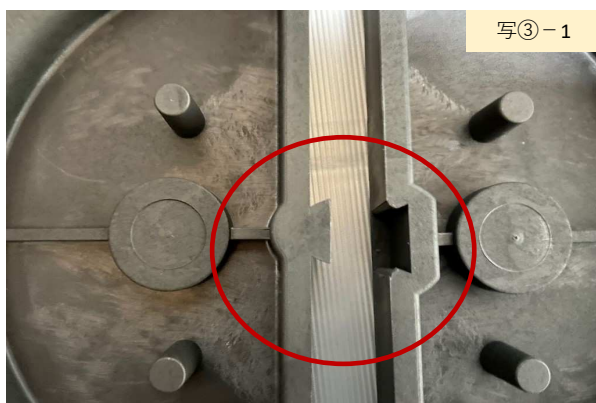
1. 温水循環器設置場所

コンセントが近い、通路等障害のない、一日数回程度の温度設定等操作できる所が望ましいと思います。

2. ホース出入り口用の敷板の設置

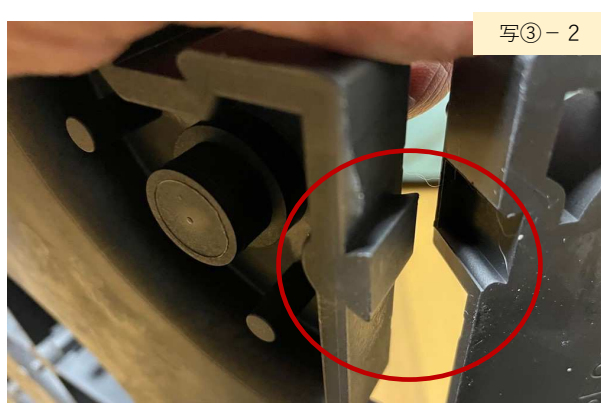
温水循環器近くに「ホース出入り口用の敷板」を設置し、ここを元に周辺に敷板を設置します。

③ はじめに (敷板のJOINT)



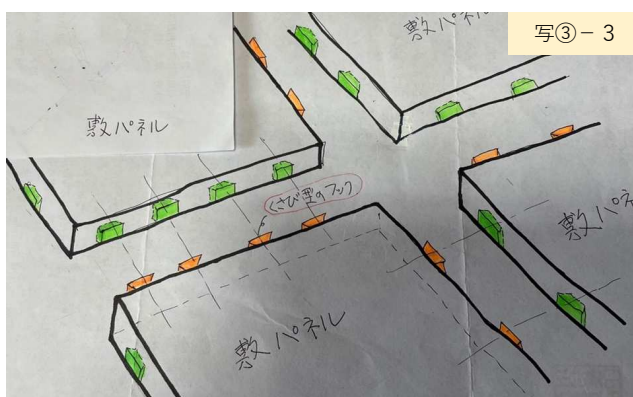
写③-1

敷パネルを下から見たJOINTのフック部

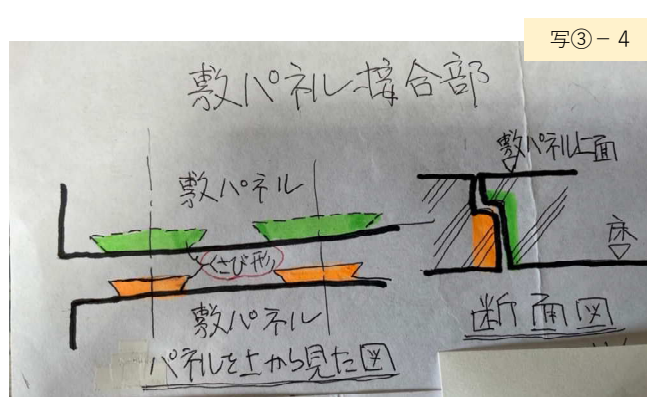


写③-2

敷パネルを下から見たJOINTのフック部



写③-3



写③-4

上記は敷パネルのJOINT部の写真と図です。

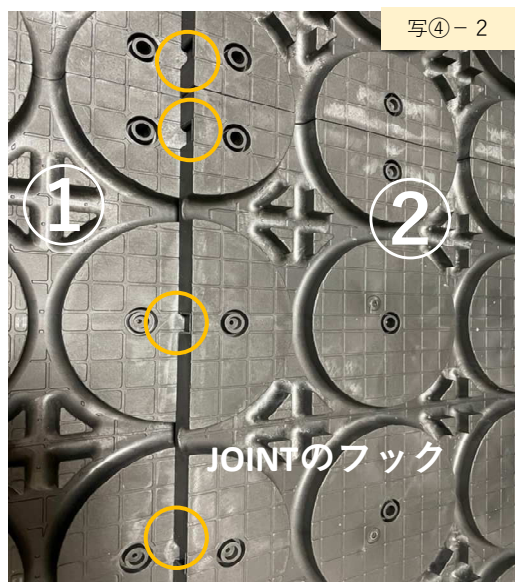
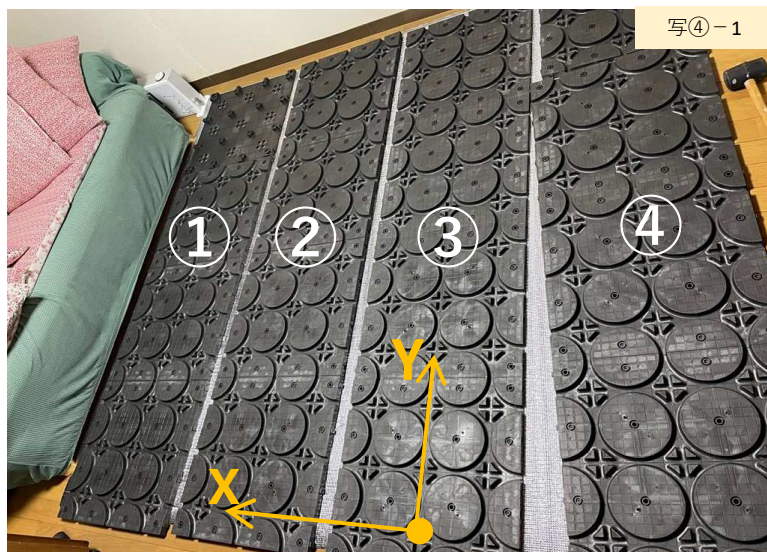
凸凹のフックはくさび型になっており、大きなサイズになるほどパネルが嵌めにくくなります。

セミダブル、ダブルサイズ (W2m×L2m) とサイズが大きくなると一枚一枚パネルをはめていくのは困難で、無理をするとフックが壊れるのでご注意ください。

私の場合は次頁のように敷板をはめていきました。

④ 敷板の組立（JOINT接合方法）

* 組立時に思いついた私案ですので、他にいい案があればそれをご採用願います

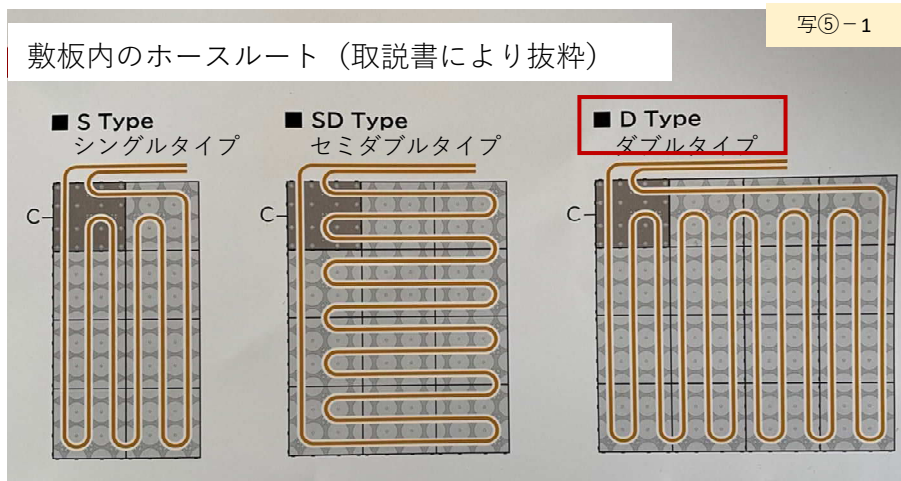


温水マットダブルサイズで説明します。

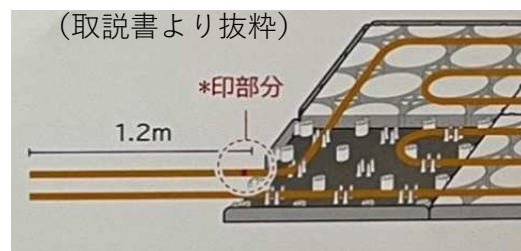
1. 写④-1のようにY方向にパネルを組み、①～④のブロックを仮置きする。
2. ①と②のブロックをJOINTするため、②のブロックをゆっくり持ち上げ①ブロック(X方向)へ、移動させ、①と②のフックが上下合うように重ねます（写④-2～3）。
一人でなく誰かに手伝ってもらって、ブロックを持ち上げた方がいいと思います。
慎重にやらないとJOINTのフック部が破損するので慎重に実行してください。
3. ②のブロックを動かし、①と②の全てのフックが上下に重なった時に、②のブロックを軽くたたいて①のブロックのフックに落とし込んでJOINTして下さい。
他のブロックも同様に実施

⑤ 敷板内へのホースの設置

写⑤-2



ホース出入口部におけるホース長
（湯水循環器と取り合い部）



今回は温水マットダブルサイズを購入したので、写⑤-1のDタイプによりホースを敷板内に設置しました。
注意点は以下の通りです。

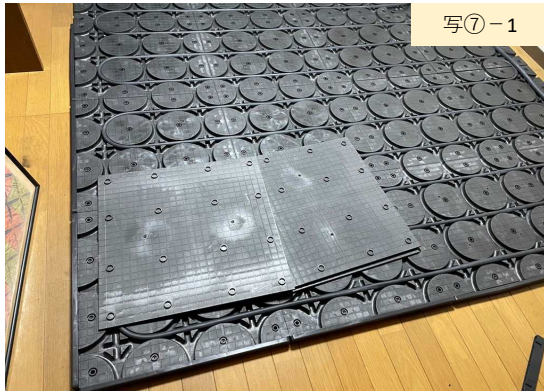
1. 湯水循環器からホース出入口用の敷板のホース出入口から湯循環器までの出・戻りのホース長を1.2m程とする。（写⑤-2、4）
2. 湯水ラインは敷板内の型（溝）に入れ込む。

⑥ サイドバーの設置



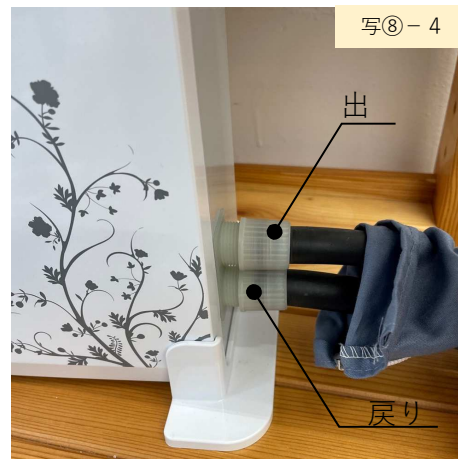
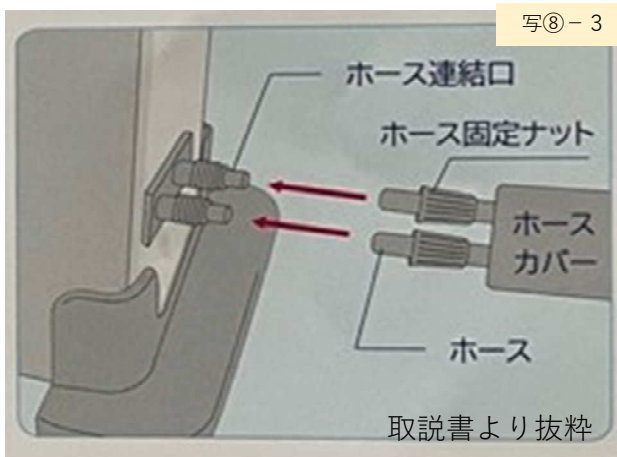
敷板横にサイドバーを付けます。この役目は外観上と敷板内の暖気を逃がさないためと思います。

⑦ 天板の設置



ホースを埋め込んだ敷板の上に天板を置きます。敷板の凹穴に天板裏の凸を合わせ、天板を軽く押しと簡単にはまります

⑧ 湯循環器へのホース接続



ホースを湯循環器に接続します。先ず固定ナットをホース内に挿入した後に、ホースを湯循環器のホース連結口に差し込み、ホース固定ナットを十分に絞め、接続完了。

足等に引っ掛からない様にするためにホースをホースカバーで包みます。

⑨ 試運転



以下の順序で運転を実施。

- ①湯循環器に天然水を給水。「水道水を入れると故障の原因となるので生水、浄水を**入れて下さい**と」と取説書にありましたのご注意を。
- ②湯循環器のコンセントをつなぎ電源ボタンを押すと器内のモーターが動き、床マット内のホースへ配水を開始。器内の水がマット内のホースに配水されるので、器内の水が不足となりE 3(水不足)の警報が出ます。「警報がでては給水」を繰り返し、器内の水位レベルが「適正レベル」になるまで給水。ダブルサイズの場合、天然水3ℓ強を必要としました。
*一回補給すると、毎日補給する事はありませんでした。
- ③ホースJOINT部、敷板内のホースの漏れがない事を確認ください。
- ④お好みの設定温度に設定してご使用ください。

< (参考) 電気代 >

消費電力が800Wなので、約30円弱/kW・hrとすれば、約30円/時間かな？

⑩ 完成

写⑩-1



写⑩-2



写⑩-3



<出来上がった製品の感想>

床マットの保温を高めるためにマットを敷くといいと思います。

仕上げ高さは36mmなので床に大きな段差ができたと感じません。